

助成事業実施報告書

団体名 _____ 特定非営利活動法人 多摩川塾

代表者・役職名 氏名 _____ 理事長 小林 洋一

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願いします)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

小学校教師と児童を対象とした多摩川での環境学習指導と教材開発

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

当法人は文科省の総合的な学習の時間がスタートした2000年、長く多摩川で自然保護や教育活動を続けてきた理科教師や市民が集まってボランティア団体「多摩川クラブ」を結成。流域小学校をまわり、児童の環境学習支援に当たってきたが、担任教師がお任せの丸投げ状態のため、翌年も同じ学校から同じ内容の依頼が入る繰り返しだった。これでは切りがないと2008年、NPO法人として登録。児童の他、教師を主対象とした環境教育指導者育成の自然体験塾を流域11箇所で開催している。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

2007年、環境学習指導をしてきた多摩川流域の小学校26校、163名の教師にアンケートをとったところ、20~30代教師の7割強が魚取りや川遊びなどの自然体験を持たないことがわかった。そのためまずは教師自身の川体験や環境教育が必要と考え、子どもたちの環境学習とは別に小学校教師を主対象とした動植物の観察会や川での安全指導などの講座を開講するようになった。同時に自然に詳しくない教師のために、多摩川でごく普通に見られる動植物の図鑑教材を企画開発してテキストとして活用している。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

- ・流域小学校教師を主対象とした自然体験講座の開催。
- ・流域小学校の児童・保護者を主対象とした自然体験学習指導や出前講座の開催。
- ・豊かな生態系を維持・保全するための魚や昆虫などの産卵床づくりの実施と指導、手引書の企画・開発。
- ・自然体験が少ない小学校教師のための魚・虫・鳥・植物などの学習教材の企画・開発。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

今年度の活動実績として事業回数が33回、参加者延べ数は3183名(別紙参照)となり、世田谷区・大田区・川崎市・調布市・八王子市・狛江市など6市にわたって活動の輪を広げた。発足当初、当時はまだ役職の無かった多摩川塾参加教師が今や校長や副校長に昇格し、当法人に対する理解・協力体制が整った。また当塾参加の団塊世代教師が退職し、無償スタッフして参加協力してくれるなど、人的効果を実感する1年となった。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

創立11年目を迎えた当法人では、すでにタモ網やライフジャケットなどの備品も揃い、会費と講師謝礼金で事業運営費も賄えるようになった。ただ自己資金では実現できない教師向け学習教材の制作印刷費をどのように確保していくのが、課題だ。ただ一般図鑑には多摩川に生息していない動植物も多く、自然に詳しくない教師や児童にとって同定することが難しく、多摩川オリジナルの図鑑教材の必要性は強く感じている。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

小学校の先生のための多摩川環境学習教材

多摩川の昆虫図鑑

これだけ知っておけばもう大丈夫。多摩川でふつうに見られる75種を収録



この「多摩川の昆虫図鑑」は、真如苑の多摩地区市民活動助成を受けて制作しました